

令和7年度 江戸川区立第四葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

<p>学校教育目標</p>	<p>○豊かに育つ四葛西っ子 ・元気な子 ・やさしい子 ・よく考える子 ・やりぬく子</p>	<p>目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像</p>	<p>目指す学校像 ○安全で美しい学校 ○子供を大事にする学校 ○学ぶ喜びを知る学校 ○開かれた学校 目指す児童像 ○主体的に学び、自ら考え正しく判断し行動できる子 ○自他の生命を尊び、相手の立場や気持ちを考えて行動できる子 ○自ら進んで運動に親しみ、心身ともに健康で活力ある生活を送ることができる子 目指す教師像 ○温かさや厳しさをもった教師 ○豊かな感性をもった教師 ○専門性をもった教師</p>
<p>前年度までの本校の現状</p>	<p>成果 ＜成果＞校内研究により、教科担任制の効果的な運用をさらに充実させた。学習指導要領の理念に基づき、授業改善に取り組み教師の授業力向上を図った結果、「授業の工夫や努力」や「学習の基礎・基本の定着」の肯定的意見の割合が約90%となった。また、教育相談の充実においては、スクールカウンセラーとの連携を図るなどして、「様々なことの教職員の相談」の肯定的意見の割合が90%をこえた。</p>	<p>課題</p>	<p>＜課題＞「情報教育の充実」、「家庭学習の習慣化」の肯定的意見の割合が、他の項目と比較すると低い傾向にあった。GIGAスクール構想に則った1人1台端末を効果的に活用した授業改善や家庭と連携した学習習慣の定着を推進する必要がある。</p>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制の効果的な運用と、校内研究による教員の指導力の向上 江戸川区学力調査の実施（3年生以上12月） 区定着度調査、学習カルテ、東京ベーシックドリルを活用した、基礎・基本の定着 よむYOMUワークシートの実施（年間30回） EDOスクの実施（年間150回以上） 毎時間の目標提示と振り返りの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本の定着を図る教育活動の実施」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 全国学力学習状況調査の国語と算数の結果が、東京都の平均正答率を上回る。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制の効果的な運用に向けて、9月までに第6学年、第5学年、第2学年の研究授業と授業公開を実施し、授業力向上を図った。 東京ベーシックドリルは2回実施し、基礎基本の定着を図るとともに児童の実態を把握し、日々の指導に生かしているが、特に算数の基礎・基本の定着にはまだ課題がある。 よむYOMUワークシート、EDOスクは計画的に実施し、年間の実施回数に到達する見込みである。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開や研究授業を通して先生方が学び合いながら授業力を高めていることに好感が持てる。 算数の定着に向けて今後の改善に期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本の定着を図る教育活動の実施」の肯定的意見の割合は80%以上となった。 全国学力学習状況調査の国語と算数の結果が、東京都の平均正答率を上回ることができた。 教科担任制の効果的な運用や定期的な朝学習の取り組み等を今後も続けていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎・基本の定着」は確実に図ってほしい。 勉強が分かることが学校が楽しくなることにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を確実に図るために、授業における問題演習の時間の確保と朝学習の時間を今年度以上に増やす。
	○個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> GIGAスクール構想に則った1人1台端末を効果的に活用した授業改善 端末の持ち帰りを活かした課題の電子化 	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上に向けた指導法の工夫」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用した授業改善を行っているが、使用状況から見て、まだまだ改善が必要である。 金曜日の家庭学習は全学年でタブレット端末を活用した学習とした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業での活用方法がより充実して一人一人の学びがさらに深まることに期待している。 iPadの活用の制限は、設ける必要があると考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上に向けた指導法の工夫」の肯定的意見の割合は80%以上となった。 1人1台端末を活用した授業改善を今後も続けていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた学習でタブレットを有効に使ってほしい。 タブレットの使い方（モラル）についても指導の徹底を図ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用した効果的な授業の推進をいっそう推進する。 情報モラル教育を充実させる。 タブレット端末を活用した指導の個別化を行う。
	○学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の学習課題提示（学年×10分+10分） 家庭と連携した学習習慣の定着 図書委員会による、江戸川区蔵書管理システムを活用した本の貸し出しや図書館整備、ポスターによるおすすめの本紹介、全校集会での読書の呼びかけなど、読書推進活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の習慣化」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着を促しているが、全国学力学習状況調査の結果から本校の六年生の学習習慣が定着しているとは言い難い状況である。 図書館整備をすすめている最中である。2学期の読書週間中に、読書の啓発と読書紹介カードの作成を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習は保護者の努力も必要と考える。 読書習慣の定着に向けた取組に期待する。 読み聞かせの取組も、子供たちが読書が好きになるきっかけとしてほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の習慣化」の肯定的意見の割合は80%以上となった。 家庭学習の定着をさらに図れるよう、今後も家庭との連携を深めていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の協力を得ながら家庭学習の習慣化を進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度はじめの保護者会で家庭学習の取り組み方について確実に情報共有し、学年便りや週一便りで定期的に取り組み状況を伝え、家庭の協力を得られるようにしていく。

体力向上	○体力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の視点に立った体育科の授業改善 ・オリパラ・レガシーの取組の充実 ・なわとびチャレンジウィークでの短縄の取組、長縄大会、持久走週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上の取組」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の体力テストに向けて、様々な運動に慣れ親しむ活動を行った。また、体力テスト前には、なわとびチャレンジウィークを実施した。 ・9月に体育部の教員を中心に、校内で器械運動の体育実技研修を実施し、体育科の授業改善に取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実技研修に取り組み授業改善のつなげている点に好感が持てる。 ・引き続き子供たちが体力向上楽しく体力向上にできることを期待している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上の取組」の肯定的意見の割合は80%以上となった。 ・今後も体育部の教員によるOJTや様々な運動に慣れ親しむ活動を定期的実施し、体力向上を図っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の取組は継続して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に取り組める体力向上の活動を定期的に取り入れる。
	○健康作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した早寝・早起き朝ごはん週間、歯磨き週間の取り組み ・給食指導を中心とした食育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活習慣の向上」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と連携した早寝・早起き朝ごはん週間や歯磨き週間を定期的実施している。 ・食に対する関心をもてるような食育指導には課題が残る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・食に関心を持つことは重要だと考える。引き続き楽しみながら学べる取組を期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活習慣の向上」の肯定的意見の割合は80%以上となった。今後も保護者と連携した早寝・早起き・朝ごはん週間や歯磨き週間等の取り組みを行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ごはんの取組はよいと思う。 ・夜遅くまでゲーム等をしていないか心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康作りの推進に関わる取り組みは、実施週間を早めに情報共有し、協力を呼びかける。
	○安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・警察や消防署と連携した防災教育や安全教育の推進 ・外部の専門機関と連携したセーフティ教室の充実 ・登校班指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全に配慮した取組」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応訓練では、警察と連携して、対応の仕方を指導することができた。 ・1,3年生にセーフティ教室を実施した。 ・年度初めに登校班指導を実施し、登校時のルールについて指導した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの安全のために聞き続け取組をお願いしたい。 ・PTAとしてもサポートしていきたい。 ・大通り通学経路になっているので引き続き安全指導を 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全に配慮した取組」の肯定的意見の割合は80%以上となった。今後も定期的な安全指導を行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・旗振りや登校班の取組などPTA、地域も協力をしていくので、安全指導をしっかりと行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を交えた安全指導を定期的実施し、実生活で意識化できるようにする。
実現に向けた教育の推進	○規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び方スタンダード」の指導徹底を通じた学習環境の充実 ・教員及び児童による「学び方スタンダード」の自己評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習規律の定着」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び方スタンダード」の自己評価を月末に実施し、意識化できるように指導している。学び方スタンダードの一覧を各学級や校内掲示板上に掲示し、意識付けできる環境を整えている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の浸透も進めていくことが環境を整えるために必要。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習規律の定着」の肯定的意見の割合は80%程度であった。本校独自の学び方スタンダードを活用し、より一層学習規律の定着を図っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び方スタンダード」を徹底し、落ち着いた学べる環境を整えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめの保護者会で学び方スタンダードについて確実に情報共有し、学年便りや週一便りで定期的に取り組み状況伝え、家庭の協力を呼びかける。
	○挨拶の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による率先した実践、家庭と連携した意識の啓発 ・挨拶週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶の推進」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による率先垂範をし、啓発している。また、代表委員が挨拶カードを作成したり挨拶週間に高学年児童が朝の時間に校門に立ち、挨拶したりするなどして気運を高めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は基本なので引き続き取り組みをお願いしたい。 ・保護者、地域の人たちへ率先して挨拶できる子供たちの育成に力を入れてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶の推進」の肯定的意見の割合は80%以上とはならなかった。教員による率先垂範を基本とし、挨拶週間の取組を充実させていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶指導は力を入れて欲しい。 ・家庭への呼びかけも必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童が気持ちの良い挨拶ができるよう、高学年児童が低学年児童に向けて啓発するなどの取り組みを行い、校内全体で挨拶を励行する気運を高めていく。
不登校・いじめ対応の充実	○心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科において、道徳ノートの活用や日常的な指導法の意見交換 ・児童が主体となって運営する縦割り班活動の充実 ・GIGAワークを活用した情報モラル教育の充実 ・いじめに関するアンケートの実施と対応 ・児童主体のいじめ防止の取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい学校」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科において、Teamsを活用した日常的な指導法の意見交換を行っている。 ・児童が主体となって運営するGAの活動を定期的に行っている。 ・道徳授業地区公開では、GIGAワークを活用した情報モラル教育に関わる取り組みを6年生で行う予定である。 ・代表委員会で、学校生活を見直す取り組みを行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童期における道徳は思春期以降の人間関係や自己形成の基盤になるため引き続き取り組みを期待する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい学校」の肯定的意見の割合は80%以上となった。今後も児童が主体となって取り組む活動や道徳授業等の充実を通して、楽しい学校づくりを行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が楽しく学べる学校を今後も目指して欲しい。地域も協力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なSSTやATを取り入れ、全児童が安心して登校できる学校づくりを行う。
	○教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全教師で児童を見守る体制の構築 ・毎朝、担任が教室で児童の迎え入れを実施 ・スクールカウンセラーとの連携を充実 ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを交えた不登校いじめ対策委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談しやすい学校」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止に関する研修会を実施した。 ・校内対応組織についての共通理解を図った。 ・SCやSSWを交えた不登校いじめ対策委員会を定期的実施し、課題を抱える児童の対応について情報共有をしている。 ・L-Gateを活用して児童の実態を把握し、指導に活かしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が相談しやすい環境をぜひ、引き続き整え、いじめが起らない学校になることを期待している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談しやすい学校」の肯定的意見の割合は80%以上とはならなかった。日々、気持ちに寄り添った対応を心掛け、児童と保護者が話しやすい環境づくりを整えていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対応については、学校が行っている取組が伝わっていないのではないかと。 ・事後対応だけでなくトラブルを起こしにくくする指導も大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育についての研修会を定期的実施し、具体的な対応の仕方を学ぶ。 ・様々な連携機関があることを保護者と情報共有し、早期に適切な対応ができるようにする。
	○積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりの充実 ・配布物の電子化 ・ホームページの充実 ・連絡アプリの活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報発信」の肯定的意見の割合を80%以上とする。 	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを定期的に更新し、学校生活の様子が伝わるようにしている。 ・tutoruを活用した情報発信を積極的に行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページが整ってきた。もっと共有してもよいと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報発信」の肯定的意見の割合は80%以上となった。今後もホームページやtutoru配信を積極的に行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで活動が分かるようになった。 ・紙とどう切り分けていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の実態に応じて配布物の電子化を推進していく。

学校(園)の 実現	地域社会に 開かれた	○意見・要望の収集	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の実施と事業改善 行事实施後のアンケート実施と事業改善 	「意見・要望等を教育活動に生かしている」の肯定的意見の割合を80%以上とする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営方針に基づいた学校評価に改善する取り組みを行っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りと見えるかすることは重要だと思う。より良い学校を目指してほしい。 	B	「意見・要望等を教育活動に生かしている」の肯定的意見の割合は80%以上とはならなかった。今後はより一層、ご意見等に耳を傾け、教育活動に反映できるようにしていく。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校は頑張っていると思うが、学校の取組が伝わり切れていないのが原因ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見要望に対する取り組みをHP等を通して積極的に配信していく。
		○教育活動への参加促進	<ul style="list-style-type: none"> 学校ボランティア等の参加型の教育活動 PTAとの連携 	「学校やPTAの活動に参加している」の肯定的意見の割合を80%以上とする。	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、読み聞かせを計画的に行い、教育活動への参加を促進している。 ふれあいまつりでは、児童のための活動になるよう、内容について情報共有している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校・保護者・地域が関わり合うことが結果として子供を支えることにつながると思う。 学校行事はもちろん地域との連携も深めていってほしい。 	A	「学校やPTAの活動に参加している」の肯定的意見の割合は80%以上となった。今後も情報共有を密に行い、協力していただけるように努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に参加しているという意見が多いのは大変すばらしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって協力していただけるよう早期の情報共有を行う。
教育の 特色ある 展開		○グリーンアドベンチャー	<ul style="list-style-type: none"> 校内の様々な樹木とのかかわりを通した異学年集団交流 	「文化的行事等の充実」の肯定的意見の割合を80%以上とする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> グリーンアドベンチャーを計画的に実施し、異学年交流を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちも楽しんでいると聞いている。 	A	「文化的行事等の充実」の肯定的意見の割合は80%以上となった。今後も展覧会や読書科、グリーンアドベンチャー等の活動の充実を目指していく。	A	<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的を明確にしなが進めていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的を児童、教員、保護者で共有し、達成できるよう指導していく。
		○教科担任制の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年目標の明確化や専科教員を交えた学年会の実施を行う学年経営 教科研究班による専門性のある指導法の検討 	「授業の工夫や努力」の肯定的意見の割合を80%以上とする。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に専科教員を交えた学年会を実施し、学年に関わる全教員で学年目標を達成できるようにしている。 定期的に教科研究班による指導法の検討を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業力アップの取組は好感が持てる。引き続き期待している。 多くの先生目で子供たちを見てほしい。 	A	「授業の工夫や努力」の肯定的意見の割合は80%以上となった。今後も定期的な授業公開や教科研究班の取組等を通して授業力の向上を目指していく。	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校の素晴らしい取組として続けていってほしい。 成果がどのように出ているのか検証していってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究と関連付けながらタブレット端末の有効活用や教科の専門性を生かした指導など、授業力の向上に向けた取り組みを推進していく。